

【概要版】新焼却施設整備基本計画（案）

1. 新焼却施設整備の背景

現状と課題

- 平成の合併後、2施設停止(中継施設化)
- 稼働中の3施設が老朽化(豊栄、亀田、鎧湯)
- 今後の人口推移に基づくごみ量減少
- 施設の効率化に向けた再整理



今後の体制

亀田清掃センターを建て替え、新田清掃センターとの2施設体制
 亀田（豊栄・新津） 新田（鎧湯・白根）



- 豊栄、鎧湯は持込みごみ受入を継続
→ 統合後も市民サービスを維持
- 本市と豊栄郷清掃施設処理組合を構成する聖籠町
→ 新発田地域広域事務組合に移行(予定)

2. 施設整備の基本方針

● 新焼却施設の設計・施工・運営における基本方針を次のとおり策定

1.環境にやさしい 排ガス等による環境負荷の低減	2.安心・安全 安定で確実な処理	3.低炭素社会を推進 省エネルギー、効率的な発電	4.災害に強い 防災拠点活用、災害時の早期処理	5.経済性 ライフサイクルコストの低減、売電収入の増
------------------------------------	----------------------------	------------------------------------	-----------------------------------	--------------------------------------

3. 新焼却施設に関する基本項目

処理方式 公害防止（排ガス）

ストーカ式焼却

- 全国7割以上の施設で採用
→ 事業者選定の競争性確保

施設規模

処理能力：459t/日
 炉構成：153t/日×3炉

- 災害分等を含む
- 注) 今後のごみ量推移により適宜精査

発電

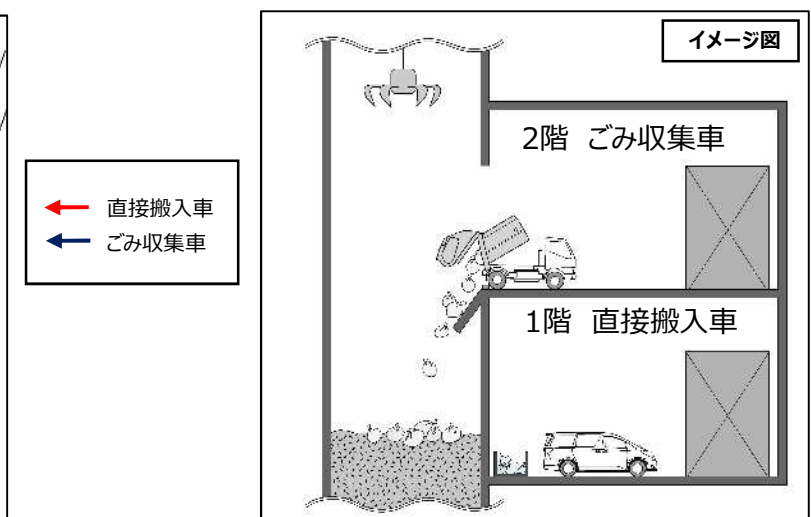
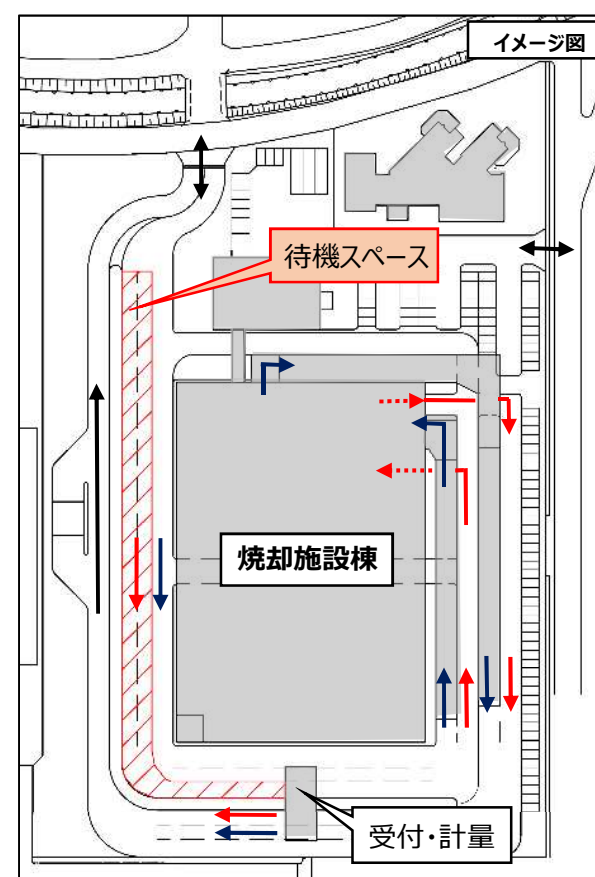
発電能力：12,000kW
 年間発電量：70,000MWh/年

- 年間発電量は現施設の約2倍、約23,500世帯分
- 注) 今後の施設規模により適宜精査

項目	単位	法基準値	新施設自主基準値
ばいじん	g/m ³ N	0.04	0.01
塩化水素	ppm	430	30
硫黄酸化物	ppm	3,000(※)	20
窒素酸化物	ppm	250	50
ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.1	0.1
水銀	μg/m ³ N	30	30

(※)想定される排ガス量、煙突高さ59mの場合の概算値

配置イメージ



- 【課題】
- 直接搬入車増による道路渋滞
 - 車両動線の安全対策

- 【対策】
- 構内待機車両動線の増設
 - ごみ収集車と直接搬入車両の分離化
 - 荷下ろし場の増設、円滑な精算システムの検討

周辺道路環境

外灯整備検討 敷地内に夜間交通の安全確保のため、 外灯の設置を検討	収集車搬入出経路 住宅地周辺を避けたルート設定(集約化) (R4年1月から一部実施)	周辺道路整備 ● 区役所と連携し検討
--	---	------------------------------

余熱利用施設検討

田舟の里（附属休憩所）継続利用

- 他の活用手法を検討

防災機能

避難所機能 ・補助的な避難所 ・150人程度収容	備蓄機能 ・市の備蓄拠点活用	その他機能 ・田舟の里(お風呂)活用
---------------------------------------	--------------------------	------------------------------

4. 整備事業スケジュール（想定）

動き / 年度	R3	R4	R5	R6	R7~R10	R11~
地元説明	●	←	←	←	←	←
環境影響評価	●	●	●	●	●	●
事業手法の検討及び事業者選定	●	●	●	●	●	●
建設工事					●	●
施設稼働						●
現施設解体(予定)						●

● R3：基本計画のパブリックコメント、地元説明会を実施